



● 叱られ上手になろう

上司から注意を受けた時の対応は、人それぞれ。真摯に受け止める、すぐ責任転嫁する、自分を責め過ぎてしまふ、受け流すなど。指摘の内容を成長に繋げつつ、叱られ上手になるにはどうしたら良いでしょう？

トラブルが発生した場合に上司に報告する場合、まずは事実だけを伝える。叱られまいとして言い訳を先にしがちですが、これは厳禁。上司から「何でこんなことになったんだ」と詰問されても、客観的に伝えるように努める。冷静に振り返り話すことで原因を突き止められる可能性が高まる。

何かと口うるさかったり厳しく叱ったりする上司を「苦手」と感じる人も少なくないかもしれない。敬遠したい上司ほど日頃からこまめな「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」を心掛け信頼関係を築きましょう。気軽に注意の真意を聞けるようにしておけば「より高い目線から見た業務の目的、自分や組織全体の役割が分かり、仕事が立体的に見えるはず。

しかし上司からの指摘を全て鵜呑みにする必要はない。何でだろう？と感じた時は、信頼できる先輩や同僚に事情を話し、考えを聞いてみると、より客観的に話しを捉える事ができます。報連相をスムーズに。風通しの良い職場の為に、まずはにっこり「笑顔」からですね。

● シリーズ 他山の石

滋賀県の介護老人保健施設で虐待事案が判明。市によると、入居者が暴言による虐待を受けているという内部通報があり、県と合同で立ち入り調査を行った結果、入居者に対し、男性介護士が「クソじじい」などの暴言を繰り返していたとする事実が判明。調査に対し、その男性職員は「イライラしていたので思わず言ってしまった」と述べ、暴言を認めている。

※ 他山の石・・・他人の誤った言行も自分の行いの参考となる事。